

# 令和6年度 事業計画書

公益財団法人ヒロシマ平和創造基金

事業名		事業内容及び計画	事業費
平和活動	推進事業	<p>「ヒロシマの心」を表現し、平和を訴える「ヒロシマ・アピールズポスター」を日本グラフィックデザイン協会 (JAGDA) と共同制作し、広島市などを通じて海外や平和団体などに配布している。また、広島市内で「アピールズポスター展」を開催している。この事業は1983年から続いており、毎年JAGDAの会員代表1名がボランティアで制作している。</p> <p>昨年度は平和・芸術教育を促進するため、JAGDA会員が市内小学校を訪問してポスター鑑賞、グラフィックデザイン・芸術に関する課外授業を行った。</p> <p>当年度も昨年度の活動を継続する。</p>	172万円
		<p>当基金・中国新聞ヒロシマ平和メディアセンターならびに外部有識者で構成する「コンテンツ選定委員会」において国内外で関心の高い“ヒロシマ情報”を選定し、英語をはじめ多言語による発信を続けている。</p> <p>2020年には中国新聞社が新聞協会賞を受賞した特集「ヒロシマの空白」を英訳にて発信、新たに発見された写真にも英訳説明を入れ世界平和と核兵器廃絶を訴え続けている。また、昨年度はウクライナ情勢やその支援などの情報発信も行った。</p> <p>当年度も世界平和・核廃絶に向けての取り組みを行う。</p>	281万円
		<p>被爆50年の節目となる1995年創設のヒロシマピースグラントは、被爆体験の継承、平和創造のための活動をしている個人、団体の活動企画に対して支援を行っている。</p> <p>昨年度は、31件の申請者(団体27件、個人4件)から13件(団体11件、個人2件)を選考し、助成金を支給した。</p> <p>当年度も公正な審査を経て十数件の助成を実施する。</p>	438万円
	支援事業	<p>広島と世界を結ぶ平和と花の祭典として1977年にスタートしたひろしまフラワーフェスティバル。昨年度はG7広島サミット開催に伴い6月10・11日の2日間の縮小開催であったが、当年度は例年同様5月3～5日の間、広島市の平和大通り、平和記念公園を中心に開催され、4年ぶりにパレードや広場が復活となる。多くの観光客が見込まれるなか、当年度も引き続き下記の2事業に支援する。</p> <p>①花の塔およびフラワーキャンドルの設営 ②花のモニュメント</p>	600万円

国際交流活動	推進事業	<p>国際交流フェスティバル(ぺあせろべ)</p> <p>ヒロシマの祈りと願いを国内外に広く発信するため、広島在住の外国人家族や留学生らと市民が集い、食や遊びを通じてお互いの文化に触れ、共に楽しみながら国際交流を図る通称「ぺあせろべ」。当基金も実行委員会のメンバーとして参画している。「ぺあせろべ」は“PEACE&amp;LOVE”をスペイン語風に発音して作られた造語。</p> <p>昨年度は、2024年1月14日にひろしまゲートパークプラザ(旧市民球場跡地)で開催した。</p> <p>当年度も引続き開催を企画する。</p>	101万円
	支援事業	<p>ヒロシマスカラシップ</p> <p>ヒロシマスカラシップでは広島県在住者または出身者で、海外や国内でさまざまな芸術の分野にチャレンジする若い芸術家に奨学金を支給している。</p> <p>昨年度は、海外留学奨学金応募者5名のうち1名、中村音楽奨学金応募者15名のうち3名を選出し奨学金を支給した。</p> <p>当年度も公正な審査を経て下記の通り支給する。</p> <p>(海外留学奨学金) 音楽分野以外での海外留学生を対象として公募(期間7~8月)し、選考者1名に対して年間36万円を支給する。支給期間は最長2年間。</p> <p>(中村音楽奨学金) 国内外を問わず音楽分野を学ぶ人を対象として公募(期間7~8月)し、選考者1名に対して年間36万円を支給する。支給期間は最長2年間。</p>	576万円
		<p>国際交流奨励賞</p> <p>教育・学術・文化など広い分野にわたって国際交流や平和創造に貢献した団体・個人を称えることを目的に、公募申請または推薦のあった団体・個人を対象に選考し表彰状と奨励金を贈っている。</p> <p>昨年度は、応募10件(個人5件、団体5件)から広島平和ミュージカル実行委員会とNPO法人広島写真保存活用の会の2団体を選出。令和6年3月5日に表彰式を行う。</p> <p>当年度も公正な選考・審査のうえ受賞団体等を表彰する。</p>	139万円